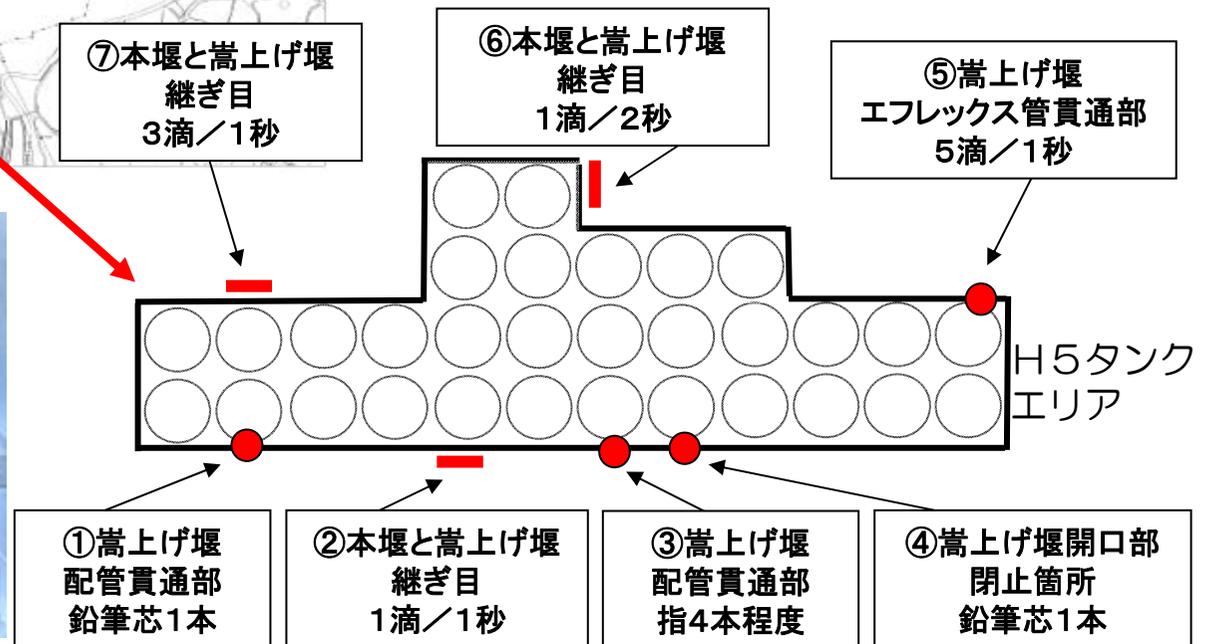
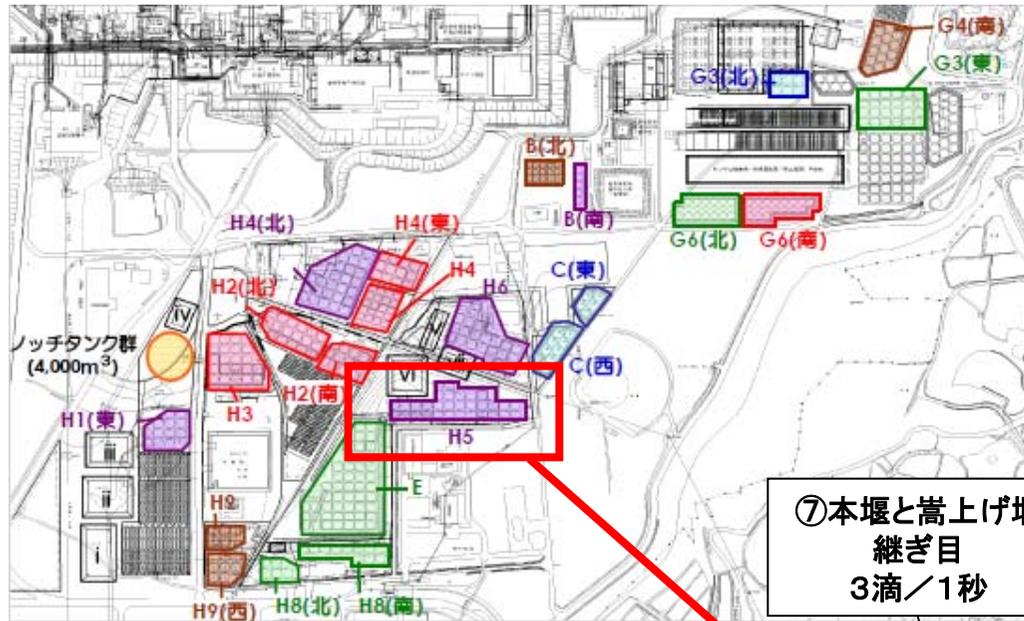


福島第一原子力発電所H5タンクエリア堰からの 雨水の漏えいについて

< 参考資料 >
平成26年2月17日
東京電力株式会社

■ 漏えい箇所と発見時の状況



堰からの漏えいの概要

■ 時系列

平成26年2月16日(日)

- ・ 9:15 タンクパトロールにて当該エリアの堰3箇所から堰内水の漏えいがあることを確認
- ・ 10:45 配管貫通部からの漏えい箇所に受け容器設置
- ・ 11:10 堰内水の移送開始(H5→H6) ※13:05移送停止
- ・ 11:20 タンクパトロールにて更に堰4箇所から漏えいがあることを確認
- ・ 12:30 応急処置(コーキング処理)により漏えい量減少
堰内水の移送先を追加(H5→4000tノッチタンク群) ※16:50移送停止
- ・ 15:30 堰内水位低下に伴い漏えい停止

■ 漏えい量

最大で約19.2m³と推定(最後の目視点検から受け容器設置までの間で算出)

■ 堰内水のサンプリング結果(2月16日採取)

セシウム134: 検出限界値未満(検出限界値:12Bq/L)

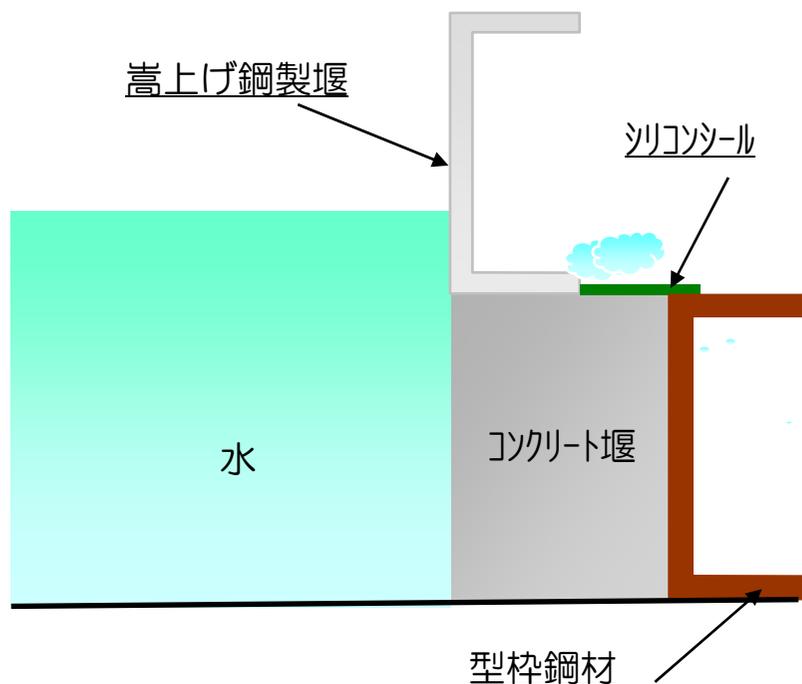
セシウム137: 検出限界値未満(検出限界値:16Bq/L)

ストロンチウム90: 23Bq/L(簡易法による測定)

- タンクパトロール結果で異常がないこと、およびH5タンクエリアのタンク水位に有意な変動がなかったことから、当該タンクの水が堰内に漏れた可能性はないと考えている
- 当該堰内水は、サンプリング結果およびタンクからの漏えいがないことから、雨水と判断

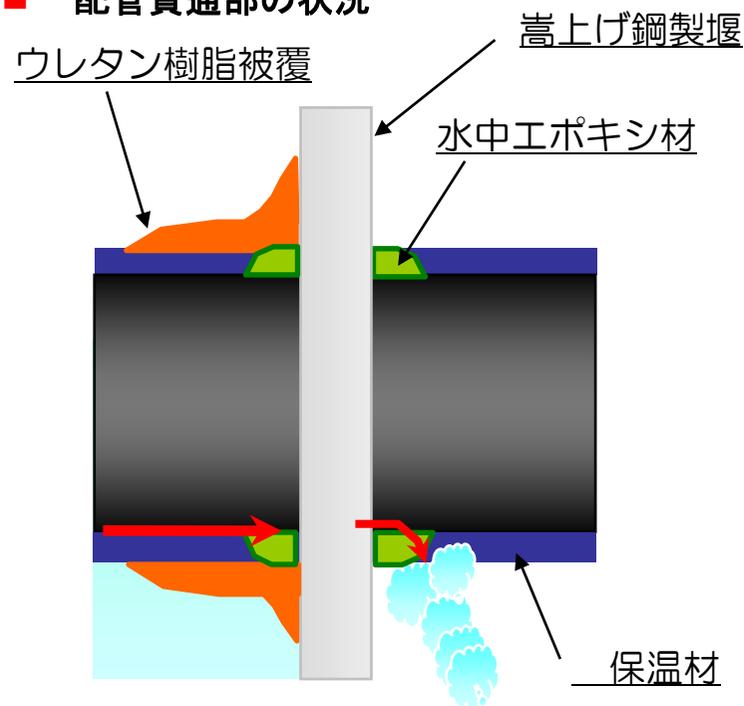
漏えい箇所の状況と今後の対応

■ 本堰と嵩上げ堰継ぎ目部の状況



- ・ 堰内面のウレタン樹脂吹付は目視では健全であることを確認。
- ・ 漏えい箇所を特定するため、シリコンシールをはがして調査中。
- ・ 漏えい原因を特定後、補修を実施する。

■ 配管貫通部の状況



- ・ 保温材の隙間から配管沿いに流入した水がエポキシ材によるシール箇所より漏えいしたものと推定。
- ・ 2月17日より配管貫通部のシーリングの補修を実施する。
- ・ 他のエリアの配管貫通部についても点検を実施し、必要に応じて補修を実施する。
- ・ 今後の配管貫通部の施工については、エポキシ材によるシーリングの上にウレタン樹脂の吹付けを実施し、保温材を復旧する方法に変更する。